

(平成 28 年 4 月 16 日)

クリーン作戦が 8 時 30 分受付、9 時から作業開始です。クリーン作戦は早めに終わると思いますので、その後に総会を開催し、午後から千本杭、第 2 調節地の湿地再生地でシギチの観察をします。

3 月 12 日のチュウヒの繁殖調査の結果は次のとおりです。

- ①「ウォッチングタワー」 チュウヒの出現回数 4 回 2 個体。繁殖活動なし。その他ノスリ 1 羽。
- ②「谷中湖の浮島」 チュウヒの出現回数 2 回 2 個体。繁殖活動なし。その他トビ 23 回、ノスリ 1 回 1 個体。
- ③「第 2 水門」 チュウヒの出現回数 4 回 3 個体。繁殖活動なし。その他トビ 8 回、ノスリ 7 回、ハイイロチュウヒ 1 回 1 個体。ただしチュウヒの出現場所は全て水門の外側。
- ④「桜堤北西端」 チュウヒの出現なし。その他トビ 9 回、ノスリ 2 回 2 個体。
- ⑤「第 3 調節地」 チュウヒの出現回数 1 回 1 個体。繁殖活動なし。その他トビ 30 回、ノスリ 9 回、ハヤブサ 1 回 1 個体。

以上の通り、チュウヒの繁殖活動は観察されませんでした。ご苦労様でした。昨年調査では浮島で 7 個体が出現し、そのうちの 2 組がアクロバット飛行を含めたディスプレイフライトが観察されていたのですが・・・この越冬期のチュウヒのねぐら入り数の調査でも 30 羽～25 羽と、昨季の調査 (62 羽～40 羽) 結果と比較しても少ないことがわかります。暖冬の影響と思われます。利根川下流域の繁殖調査に加わった経験から考えると、数組のつがいが繁殖地上空をディスプレイフライトしていながら営巣数は 1 つでありましたから、越冬個体数が一定以上に多くないと、繁殖に繋がるような活動も少ないか、見られなかつたりするのかもしれませんが。平成 23 年の大震災の際、ヨシ焼きが中止され、チュウヒが繁殖したことから、ヨシ焼きを中止又は部分的に中止をすれば、チュウヒが繁殖するとの意見があるが、稀なその一例を除き、国内で繁殖しているチュウヒの繁殖地は、海辺に近い湿地に限られています。また、ヨシ焼きが始まった昭和 30 年代以前にチュウヒが繁殖していたという痕跡はありません。チュウヒに限りませんが、生き物は長い年月を掛けて習得した習性に従って行動し、有利に餌と安全を求め、時には繁殖域の拡大を図り、永続的にその種の安定した繁栄を確保しようとするものと思います。なお、また、「習性」という枠を超えて、生息域や行動様式を変えることもありうるが、そのような「生態的な解放」には何かの契機が必要なのだと思います。要するに先進繁殖地の地形や地勢、植生などと遊水池を比較しても、今後のここでのチュウヒの繁殖は極稀にはあり得ること、というように思います。しかしオオセッカの繁殖がありますから・・・。

*「渡良瀬遊水地 野鳥ガイドブック」が発行されました。編集発行 アクリメーション振興財団、執筆が関口さん、私が監修。写真協力が石川さん、小倉さん、加藤さん、関口さん、真瀬さん、山田さんです。一冊 100 円です。

*利根川上流河川事務所が、第 3 調節地で繁殖するオオタカを心配し、繁殖地周囲に立ち入り禁止の縄張りをしました。繁殖妨害にならないように気配りある観察をしましょう。

鳥便り 3/14・24 コミミズク (真瀬)。3/24 ヨシガモ、カワセミ、ベニマシコなど (真瀬)。4/4 地内水路にヘラサギ (真瀬)。4/5 カンムリカイツブリ夏羽の雌雄 (板倉・真瀬)。4/6 スズガモ群飛、アトリ (関口)。4/7 第 3 調節地にサシバパーチ (一色)。4/8 ニュウナイスズメ (真瀬、関口)。4/12 コムクドリ (関口)。4/14 例年の東側繁殖地でオオセッカのさえぎり (小倉)。



(ヘラサギ・真瀬)



(カンムリカイツブリ・真瀬)



(コムクドリ・関口) (アトリ・関口)

*5 月 21 日の定例会は、オオセッカの繁殖調査をします。その他草原の野鳥のさえぎりでも賑やかでしょう！

第 66 回 渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例会

（平成 28 年 5 月 21 日）

前回（28 年 4 月 16 日）は、クリーン作戦に参加後、総会を開催、以下事項が決りました。

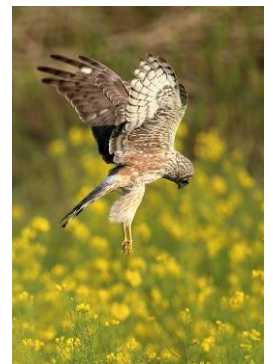
〔役員〕 会長 一色安義 副会長 五十畑正夫、関口明 企画員 真瀬勝見、長谷川進、木村雅代、山田孝治、崎山佳裕、野田修 会計 松岡弘美 顧問 渡良瀬遊水地研究所所長 白井勝二氏

〔会計〕 コピー用紙代、インクカートリッジ代 5,893 円を支出、差引残高 40078 円。当面は会費の徴収は行なわず、新規加入者からは、年会費額の 1,000 円を頂く。活動計画は例年と同じですが、野鳥の動向に応じた変更があります。私は、引き続き会長やらせて頂きますが、感音性難聴と加齢による難聴が進行し、会議等には対応できません。体力も低下し、そのために、副会長、企画員の方々に役割を分担して頂くことにしました。80 歳まで、頑張ります。ご理解ください。

午後からは、シギチの観察をしました。例年になく種数、数とも少なく、「千本杭」はアオアシシギ（？）飛翔 1 羽、コチドリ 4 羽。「湿地再生地」でアオアシシギ（？）飛翔 4 羽。第 3 調節地の沼では 1 羽も確認されませんでした。合計で 2 種 9 羽でした。その他湿地再生地でチュウヒ 1 羽、第 3 調節地でオオタカ♂1 羽、ヌマスギ林でトラフ 1 羽でした。

毎年同時期のシギチの観察での状況を、時系列に 5 ヶ年分あげて見ます。28 年 4 月：2 種 9 羽。27 年 4 月：5 種 21 羽。26 年 4 月：8 種 20 羽。25 年 4 月：8 種 50 羽＋。24 年 4 月：10 種 41 羽。たった半日の観察ですが、その前後の状況も観察結果と同じようです。シギチの多くは旅鳥です。世界規模で何かの変化が起こっているのでしょうか。しかし、平成 24 年 5 月 10 日に、関口さんが見つけた谷中湖浮島の、キアシシギの大量渡来は、多少の増減があるものの、約 200 羽～500 羽で推移し、今期も 400 羽前後が渡来しています。どのように理解したらよいのでしょうか。谷中湖のものは、発眼卵放流をされたワカサギの稚魚が誘引していると思いますが・・・。

鳥便り 4/13 オオタカ♂、キジ♂（真瀬）4/14 第 3 調節地にサシバ♂、*繁殖はしていないようです（一色）。クサガメ。4/15 谷中湖浮島にキアシシギ 6 羽（大木）。4/16 中ノ島にコムクドリ、ニューナイスズメ、チョウゲンボウ（クリーン作戦参加者）。4/20 ノスリ、チュウヒ、トラフズク、（小峯）。4/22 ハシブトガラスにモビングされるフクロウ（四社神社・大木）。4/27 ササゴイ 2 羽、谷中湖浮島にキアシシギ 13 羽（木村）。5/1 谷中湖にコアジサシ 30 羽＋、アジサシ 1 羽、ユリカモメ夏羽 1 羽（木村）。5/6 コヨシキリ、トラフ、谷中湖浮島にキアシシギ 200 羽＋（木村）。5/7 ムラサキサギ（真瀬）。5/11 トラフズク巣立ちピナ救援（一色）。5/16 ハイイロチュウヒ♀と菜の花（真瀬）。5/18 谷中湖浮島にキアシシギ 400 羽＋（木村、一色）。



（フクロウとハシブトガラス・大木）（歩くオオタカ・真瀬）（お花畑のキジ♂・真瀬） → （菜の花と・真瀬）



***今回は、**オオセッカの繁殖調査をします。さえずる♂を数えます。さえずり飛翔をするものもいます。オオセッカの繁殖縄張りは広くはありませんので、難しくは無いと思います。

地図を配ります。地図上部の説明事項をお読み頂き、結果をご記入ください。

*写真展を開きます。7 月 1 日～8 日。皆様のご出品を！

（ムラサキサギ・真瀬）

（一色）